

# 被災した公民館を再建する「みんなの家」

嘉島町北甘木地区



## 被災した公民館を再建する公民館型みんなの家、完成第一号！

「日本財団わがまち基金」を活用し、熊本地震で被災した公民館を再建する取組みを10地区の公民館でアートポリスプロジェクトとして進めている。再建が進行中で、その第一号となる嘉島町北甘木地区のみんなの家が完成した（2019年6月）。地区住民をはじめ、嘉島町長、工事関係者など、県内外から多くの人々が参加した。式典のオープニングは地区住民による「ひょっここ踊り」が披露された。

り」が披露され、和やかな雰囲気の中で、完成を祝った。式典後に開催された完成見学会では、設計者や施工者、家具提供者からの説明が行われた。完成を喜ぶ声が聞こえ、笑顔の絶えないイベントとなった。設計者である千葉学氏は「町の誇りになるものとして取り組んだ。生活や風土に合った施設ができた」とコメントした。他の地区でも次々と完成している。

- 構造・階数 木造・地上1階
- 延べ面積 111.89㎡
- 設計者 千葉学 / 株式会社千葉学建築計画事務所
- 施工者 有限会社ウエダホーム
- 竣工 2019年6月



地区のみなさんによる「ひょっここ踊り」が披露された



千葉学氏（設計者）による説明



安東陽子氏（テキスタイルデザイナー）によりデザインされたカーテン

大津町新小屋地区



- 構造・階数 木造・地上1階
- 延べ面積 37.26㎡
- 施工者 株式会社モリスデザイン
- 竣工 2019年11月

嘉島町上六嘉地区



- 構造・階数 木造・地上1階
- 延べ面積 111.89㎡
- 施工者 株式会社コーケン
- 竣工 2019年12月

大津町高尾野地区



- 構造・階数 木造・地上1階
- 延べ面積 111.89㎡
- 施工者 株式会社モリスデザイン
- 竣工 2020年3月

※西原村大切畑地区のみんなの家は2020年度完成を目指している

甲佐町麻生原地区



## 甲佐町や南阿蘇村、西原村においても整備が進んでいます！

2019年12月に甲佐町麻生原地区のみんなの家が完成した。今後は熊本地震で被災した熊本城天守閣破損瓦を使ったワークショップなどが開催される予定。南阿蘇村立野駅区や大津町上揚地区、西原村下小森地区・風当地区のみんなの家は2020年度中の完成を目指している。多くの住民が集まることのできる天井の高い大きな空間と天井の低い小さな空間が併存するワンルームがつけられた。小さな空間の一部には水回りや倉庫、災害時には炊き出しができる広い軒下空間があり、常時人々の集まりやすい空間となっている。

- 構造・階数 木造・地上1階
- 延べ面積 59.6㎡
- 設計者 塚本由晴+貝島桃代+玉井洋一 / アトリエ・ワン
- 施工者 宮田建設株式会社
- 竣工 2019年12月



南阿蘇村立野駅区のみんなの家

## オリジナル家具を寄贈いただきました

HOME-FOR-ALLの支援により、カリモク家具株式会社製作協力、家具デザイナー藤森泰司氏デザインのオリジナル家具“ensemble”が、被災した公民館を再建する「みんなの家」に寄贈されました。“ensemble”アンサンブルは、ベンチ、ローテーブル（ちゃぶ台）のシリーズで、フランス語で「一緒に」「ともに」、あるいは「調和」を意味する言葉です。デザインは、設計者の意見をもとに考えられており、素材はテラスでの使用も考慮し、水や腐敗に強い国産の栗材を使用。多様な組み合わせが可能で、柔らかな雰囲気を合わせ持っています。心安らぐ場所で、「みんな」が「ともに」使う“家具”として、長く使っていただくことを願っています。



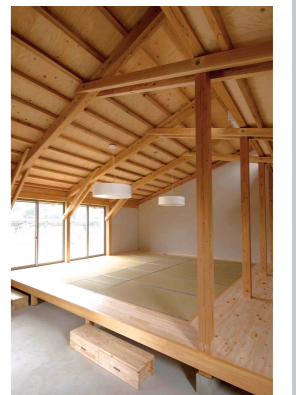
カリモク家具株式会社  
取締役副社長 加藤 洋氏  
熊本地震をきっかけに、コミュニティのエネルギーとして家具が役立てるという思いがあり、今回の家具製作・提供に取り組んだ。地区住民が集まって、話ができる場づくりを配慮し、屋外で使っても腐れにくく、丈夫なクリ材を使用。見学会で地区の人が使っている様子を見て嬉しかった。



株式会社藤森泰司アトリエ  
代表取締役 藤森 泰司氏  
家具は人が直接触れるもの。質の良いものに触れて、前向きな気持ちになってほしい、という思いで製作。テーブルは床に置いて、掘りごたつで使用しても使える高さやサイズ。ベンチは縁台としても使えるように工夫。デザイン性はもちろん、機能性にもこだわっている。



その他、県産畳や建材等、たくさんのご寄付をいただいています。



八代東ロータリークラブ寄贈の県産畳を敷いたみんなの家